

PRAEVIDENTIA DAILY (5月13日)

昨日までの世界：レンジ内で円が軟化

昨日は、材料が少ない中で全般的に小動きだった中、0.3%だが相対的にドル/円の上昇が目立った。ドル/円は東京時間朝方、通常はあまり反応が大きい本邦経常収支が市場予想比悪化すると円売りとなり102円乗せとなった。その後102円を割り込んで推移していたが、ウクライナ情勢への懸念は高まらない中で、NY時間入り後に米株価が上昇、米長期債利回りもつれて上昇するとドル/円も再び上昇し、102円台を維持して引けている。ウクライナでは11日に自治権拡大を巡り住民投票を行ったドネツク、ルガンスクで親ロシア派が賛成大多数で自治権拡大が可決されたという結果が発表され、25日の大統領選に参加しないことを表明、欧州は対ロシア経済制裁を若干強化したが、市場は殆ど反応しなかった。他方、ポンドは英企業による独伊企業買収報道にも拘らず対ドル、対ユーロで上昇、対ドルで一時1.69ドル台を回復したほか、対ユーロでは一時0.8143ポンドと年初来安値（ポンド高値）を更新した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.3	+0.01	+0.01	+0.00	+0.03	+0.04	+0.00	+1.0	-0.4	+0.6	+0.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.0	-0.02	-0.00	+0.01	-0.03	+0.01	+0.04	+0.8	+1.0	+0.5	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.02	+0.03	+0.01	+0.01	+0.05	+0.04	+0.5	+1.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.0	-0.00	+0.01	+0.01	-0.03	+0.01	+0.04	+1.0	+2.1	+0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.1	+0.01	+0.02	+0.01	-0.00	+0.04	+0.04	+1.0	+2.1	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	-0.00	+0.01	+0.01	-0.00	+0.04	+0.04	+1.0	+0.6	+0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：豪緊縮財政と欧景況感悪化は通貨安要因

きょうの注目通貨：AUD↓、EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪3月住宅ローン・前月比	10:30	+2.3%	+1.0%	
Lockhart アトランタ連銀総裁発言	13:30			ややハト派、投票権なし
中国4月鉱工業生産・前年比	14:30	+8.8%	+8.9%	
中国4月小売売上高・前年比	14:30	+12.2%	+12.2%	
中国4月固定資産投資・年初来	14:30	+17.6%	+17.7%	
独5月ZEW期待指数	18:00	43.2	40.0	予想通りだと5か月連続悪化
Weidmann 独連銀総裁、	18:00			タカ派
Lautenschlaeger・ECB理事発言				不明
豪Abbott首相、連邦予算案発表	18:30			
米4月小売売上高・前月比	21:30	+1.2%	+0.4%	
同・除く車、ガソリン、建築資材・前月比	21:30	+0.8%	+0.5%	
米3月企業在庫	23:00	+0.4%	+0.4%	
Lacker リッチモンド連銀総裁発言	23:30			タカ派、投票権なし
RBNZ、金融安定報告発表	6:00			
Wheeler・RBNZ総裁記者会見	6:05			

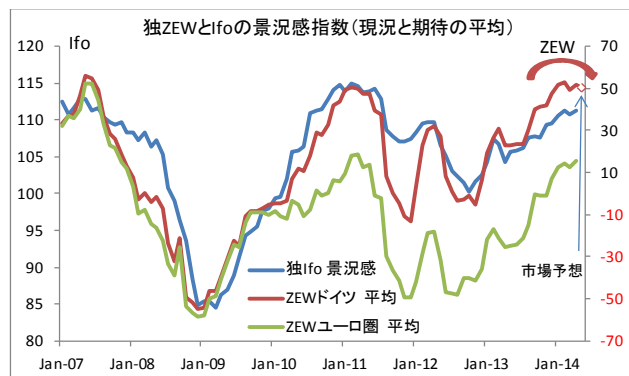
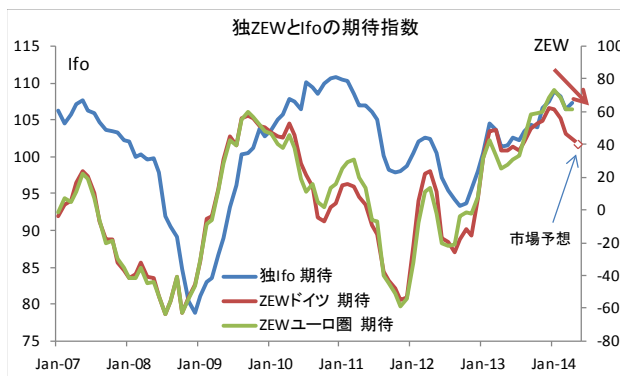
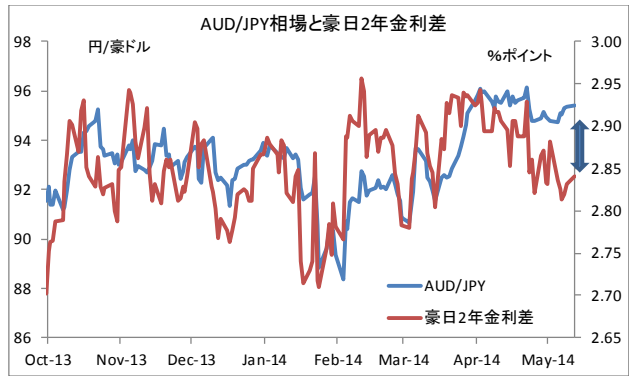
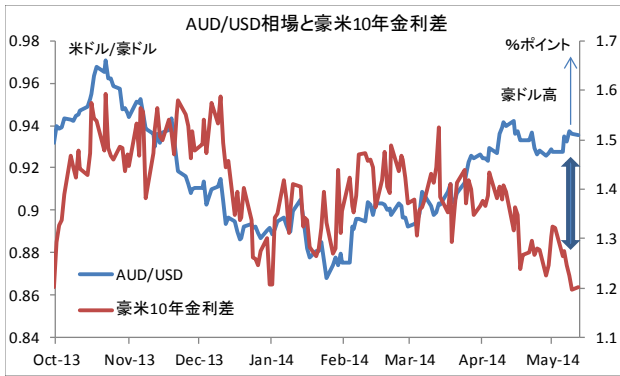
(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は中国主要経済指標、独 ZEW 期待指数、豪予算案発表、米小売売上高などが注目される。

中でも最も相場に影響が大きいそうなのは**豪連邦予算案**で、これまで既に豪メディアでは各種財政緊縮案について報じられており、ある程度織り込まれている模様で、5月入り後豪州の中長期債利回りは低下基調にあり、豪米10年金利差は豪ドル安を示唆している。もっとも、豪ドルの対米ドル相場はどちらかというと堅調に推移してきたことから（**下図を参照**）、実際に緊縮的な内容が確認され、今後の景気下押し圧力が意識されると、来年初とみられている RBA 利上げ開始時期に関する期待が後ずれし豪ドル売り圧力となるリスクがある。豪ドル/円は豪日2年金利差との連動性が強いが、こちらも金利差の低下と比べてやや豪ドルが過大評価となっているようだ（**下図を参照**）中国主要経済統計については、下振れた場合に中国景気減速の豪州経済への悪影響が意識され豪ドル安要因だが、悪い場合は景気刺激策への期待感を強める面もあり、豪ドルの反応は限定的だろう。

次に注目は、ユーロ圏の指標の中で最初に5月分が出る**独 ZEW 期待指数**だ。これまでドイツを中心に PMI など現状認識を反映した景況感指数は予想外の改善を示してきているが、先行き見通しを示す ZEW 期待指数の悪化継続（今回悪化だと5か月連続、**下図を参照**）が確認されると、ECBの6月政策理事会での追加緩和期待を強めユーロ続落に繋がるだろう。但し、ユーロ圏経済指標では15日発表のユーロ圏1QGDPの方が注目度が高いかもしれない。

ドル/円は昨日102円を回復したものの2月以降の102円を挟んだ横ばい圏内の推移が継続している。米小売売上高を受けて上下するとみられるが、方向感が全くない状況は変わらないとみられる。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641